

すぎなみソシャル・デザイン塾～杉並をデザインする社会起業家になる～

## 第一章 「つながり発見」～自分を知る・杉並を知る

学習支援者：(株)三井物産戦略研究所 新谷大輔さん

< 06年度 市庭の観点その2 >

1 8月9日(水)公開講座：「社会とのつながりに出会う体験型ワークショップ」

講師：中野民夫さん(ワークショップ企画プロデューサー)

昨年(05年)の3月から9月まで行われ約22百万人の人々が訪れた、愛・地球博覧会(愛知万博)の「地球市民村」で、新谷さんと一緒に仕事をした関係から、本日、「ワークショップって何だろう?」講座を担当された中野民夫さんの講演概要のポイントをお知らせいたします。

### 2 ワークショップとは

講師から一方的に話を聞いたり教材を読んだりするだけでなく、実際にやって、感じてみようという「体験」を重視した学び方という。英語の意味は「仕事場」「共同作業場」で、一緒に何かを作る所ということ。時間が限られているので本日はそのエッセンスを身近に体験するように工夫してある。

参加者は40人、会場に入る時刻も一斉ではないために、リラックス体操から始める。

次に

通勤途上の駅の雑踏を歩く「歩き回り」「呼びかけ挨拶」「目合わせ」を始める。

以上がアイスブレイク(緊張を解く)となる。

導入部に続き

ワークショップの形式として三つのスタイルを実践、体験することになった。

全員で輪になって座る(円形に座り、キーワードを利用しながら自己紹介を行う)

キーワード：

・今の気分は ・杉並の自慢を

車座スタイルは、お互いの顔がよく見える、話す人は相手の表情や反応を見ながら話せる。聴く人も、話す人も表情、身振りを見ながら話を聞けるので、お互いに反応しやすい。自由で和やかな雰囲気を醸成することが狙いです。

ペア(2人組)で相互インタビュー…杉並、社会とのつながりに気付く、人の多様性に気付くことが狙い

質問：

・あなたが杉並に住んだのは、何時、どのような縁でしたか、そのときの印象は。

(ご縁を考える)

- ・杉並に住んでよかったと思うところはどのような時ですか。

(自分の感じ方を確認する)

- ・三ヶ月の休暇が取れたとして、杉並(住んでいるところ)で何をしたいですか。

更に、魅力的な杉並にするために取り組みたいことは。

(目標を立てる、資源を定める)

二人ペア(Aさん、Bさん)となって、Aさんが10分、質問についてしゃべる、Bさんは、メモを取る。今度は、Bさんがしゃべり、Aさんが文章を作る。お互いに相手を第一人称にして、500字程度の文章を作成する。

事例紹介：新谷大輔さんと東島信明の組み合わせでしたので

#### 「つながり仕掛け人」

私は、新谷大輔といい、すぎなみ大人塾の学習支援者となったことから、すぎなみの資源・人材を知るきっかけを得た。CSR研究会(企業の社会的責任)のメンバーの中で7人が杉並区の住人であったので杉並のことを知っていたが、大人塾の関わりから杉並のことが分かってきたが、さらにもっと知ろうと思っている。

杉並の印象に変化

何かを作り出す人がいる、積極的に地域を作っていく人がいる、ダイナミックに地域が動いていることを感じるので私の目標である、「ソーシャルキャピタル」「ソーシャルデザイン作り」のよき実践場となるように努力したい。

三ヶ月の休暇が取れたら

- ・一ヶ月目 住居を確保の上、杉並区内を歩き回る
- ・二ヶ月目 杉並の資源、人を知ることに専念
- ・資源など確認したうえで、諸々の活動に必要な「つながり」の仕掛けを作っていく。さらに、全国各地で、特色のある「まちデザイン」「つながりネットワーク」を作り日本を再生したい。

東島信明 記

#### 「人が流れるまちを作る」

実はたまたま杉並(井の頭線永福町駅)に住むことになったのが10年前。「駅に近い」というのが、住む決め手でありました。

善福寺川が大好き。セミの羽化を昨夜観察。カラスが夕方、樹木の根に、ちょんちょんしているのが分かる。夏の小動物は食うか、食われるかの競争が歩きながら分かる。美しい豊かな「自然」を自慢できる。

今、やりたいこと。

この自然を感じるために、もっとみんなが感じられるように「ウォーキング・ルート」

を一杯、開発したい。トイレがどこにある、とか、どのようなインフラがあれば、みんなが歩きやすくなるのか、マップを作りたい。そして、「歩け歩け」キャンペーン。地元の人がいきき歩き、「人が流れる」町にしたい。 新谷大輔 記

各人が、作成したメモを持って6人で1グループを作る。Aさんが作成したBさんの紹介文を読み上げる。自分がどのように表現されているのかを他人の目を通して確認することが狙いです。

このような、三つのスタイル(大中小のグループ分け)のワークショップを体験した後、参加者の感想を述べました。

#### 主な感想

- ・ 杉並の資源がバラエティーに富んでいることを気付きました、特にみどり豊かな河川、公園などがあること。
- ・ 一度に多くの参加者から、各人の思い、考え、杉並区に来た経緯と動機などを幅広く知って、同じ共通点があることに気付きました。
- ・ 感受性、表現力などを若い人が身につけているのに比べ、自分の話べたに気付きました。
- ・ 杉並とは、神田川、善福寺川、玉川上水などの川の資源、都会的なところと田舎風なところが混在していることや、阿佐ヶ谷・高円寺周辺に見られるサブカルチャー、西荻・荻窪の住宅街、ケヤキ並木などが交じり合った地域です。

#### 最後に

中野民夫さんから、本日のワークショップのまとめがありました。

「ワークショップ」とは、講義など一方的な知識伝達スタイルではなく、参加者が自ら「参加」・「体験」しグループの「相互作用」の中で何かを学びあったり、創り出したりする

「参加」とは双方向的な学びと創造のスタイルで、参加者の興味や意欲を引き出すことに意味があります。

#### ワークショップの三大特徴

- 「参加」 : 参加する積極的な姿勢が不可欠、参加意欲が双方向の場をつくる
- 「体験」 : 五感を使って体験、人間の4要素である身体・知性・直感・感情を活用する学び
- 「相互作用」 : お互いに学びあう、シナジー効果が出てくる、盛り上がり、他者からの学びと気付きがある

各人が、参加、体験した状況を、自分で振り返り、分析し、それを参加者と分かち合い、自分で概念化する、さらに、参加者と自由に話し合う中で学びを深めることが重要で、「共創」「協働」の世界です。

ワークショップの最大の意義は「他人事」の情報を「自分事」に換え、当事者意識が深まることです。

## 中野民夫さんからのお知らせ

+++ 分野を越えて「参加型の場づくり」の技法を学ぶ +++

=====

ファシリテーション基礎講座・2006第5期 受講生募集中！

=====

平和で持続可能な社会と組織のために  
様々な分野で高まる「参加型の場づくり」のニーズ。「ワークショップ」とも呼ばれる双方向の場を作り、一人ひとりの思いや力を引き出し、促進し、まとめていく技法が「ファシリテーション」です。その基礎を学び、身につけ、実践へと応用するための連続講座です。

事前説明会を行います 9/20(水)19:00～ 説明会の参加は事務局までお電話/メールでご連絡下さい

講師チーム

中野民夫:ワークショップ企画プロデューサー。『ワークショップ』『ファシリテーション革命』(岩波書店)著者

森 雅浩:Be-Nature School代表

鈴木まり子:キャリア教育ファシリテーター

大枝奈美:コミュニティーファシリテーター

富岡 武:組織人事コンサルタント/研修ファシリテーター

ファシリテーション基礎講座の内容

講座のしくみ

隔週平日夜6回・19:00～21:45(10/4水・10/18水・11/1水・11/15水・11/29水・12/13水)と週末1泊2日の合宿(12/16～17土日)で実施。講義と実習を合わせたワークショップ形式で進めます。

募集対象

様々な分野で「参加型の場づくり」や「ファシリテーション」の必要性を感じ、実践に取り組んでいる方。あるいはこれから取り組もうとしている方。原則として講座の全日程に参加できることが条件です。

定員16名

講座へのお申し込み方法

FAX、はがき又はEメールに以下の項目をご記入いただき、Be-Nature Schoolまでお申し込み下さい。

#### 記入項目

氏名(ふりがな)/性別/年齢/郵便番号・住所/電話番号・FAX・Eメールアドレス/主な活動分野・所属/あなたがなぜファシリテーションを必要としているのか、具体的な状況や思い(A4一枚程度・書式自由)

#### 申込締切

9/21(木)必着有効。申込多数の場合は、必要度の高い方と思われる方を優先させていただく場合があります。あらかじめご了承下さい。結果は9/27ごろまでにお知らせいたします。

#### 受講料

¥85,000(合計28.5h・約2980円/h)

分割支払い制度あり

1泊2日合宿の宿泊・食費は別途実費をご請求します(1万2千円程度を予定)

会場までの交通費は含みません。

この講座は主に個人を対象にしていますが、企業からの派遣も歓迎します。ただし、その場合(会社宛領収書発行)は受講料を¥95,000とさせていただきます(個人事業主、NPO等は除く)。詳しくはご相談下さい。

#### お申し込み/問い合わせ

Be-Nature School(ビーネイチャースクール) 150-0002 東京都渋谷区渋谷1-15-9 美竹ビル

506

TEL 03-5774-5801 FAX 03-5774-5803

<http://www.be-nature.jp> E-MAIL [letit@be-nature.jp](mailto:letit@be-nature.jp)